
息を引き取る

結城 祐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

息を引き取る

【Zコード】

N94710

【作者名】

結城 祐

【あらすじ】

先日、私の祖父が亡くなりました。

その瞬間に立ち会った時、思った事を書いてみました。

考えてみてよ。

『息を引き取る』ってどういう事か。

人は息絶えるその瞬間、息を引き取る。

例外無くどの様な人も、最後に息を静かに吸い込む。

人が最後にする行動『息を引き取る』

病室で息をするのも苦しそうだったのに、最後だけは静かに息を引き取る。

引き取る。

何を引き取つてゐるのだらう。

この庄の未練か。
この庄の思い出か。

それを息に乗せて一気に吸い込むのかな。

心の臓が止まつたままの、何で最後の最後に頑張つて引き取る
うとするのかな。

目は閉じて、臭いもわからない。

でも耳は生きている。

私達が声をかける。

その声を耳で聞いて、最後に私達が吐き出した息を引き取ってくれるのかなあ。

でも最近は意味も無く引き取る人が大勢いるんだ。

勝手に死のうと思つちゃ いけないんだよ。

一生懸命に、頑張つて生きて。

辛くとも歯を食いしばつて生きて。

そつすれば、引き取る息を『与えてくれる人が回りに沢山出来るんだよ。

笑顔で息を引き取れるんだ。

一人で悩んで勝手に死のうとするな。
あの世で一人何も無いまま、いなきやいけないから。

それって死んでも結構苦しいと思うよね。

さあ、いない人は探そうか。
いる人は増やそうか。

増やした人はもっと増やそうか。

息を与えてくれる人を。

(後書き)

あらすじに書きましたが、これは私の祖父が病室で息を引き取つた際に感じた事です。

私は彼にとつての初孫と言つ事で、子供の頃は旅行に連れていつてもらつたり、

昔の事ながらとても良く面倒を見て下さった覚えがあります。

成績優秀かつ陸上で県内入賞を果たす等と文武両道と聞いた事があるので、

人としても尊敬できる人物がありました。

精一杯生きたであろう彼の病室には、私も含め7人。最後の最後も頑張つて呼吸をしている彼を見て、

この世で命を無駄にしている人々がいると言つ事が、頭を過ぎりました。

意味も無く毎日町をぶらつく若者、部屋の中に引きこもつつきの若者、若者、頑張るうともしないで直ぐに自殺を選んでしまう若者。

死に際でも息を吸う為に、頑張っている人がここにいる。
そういう人が意味ある『息の引き取り』を出来るのだ。

そう考えて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9471o/>

息を引き取る

2010年11月16日05時11分発行